

飛鳥資料館 春期特別展「いにしえの匠たち—ものづくりからみた飛鳥時代—」

仏教が伝來した飛鳥時代は、文明開化ともいわれる変革の時代でした。巨大な瓦葺き建物や高層の塔、金色に輝く仏像、きらびやかな荘嚴具等に象徴されるように、異国の仏教文化が、最新の知識や最先端の技術とともに飛鳥にもたらされました。

仏教文化の興隆と律令国家建設の進展にともない、首都飛鳥の地では、金・銀・銅・鉄等の金属製品をはじめ、土器・瓦等の窯業製品、漆製品やガラス製品等、さまざまな「ものづくり」がおこなわれました。

本展覧会では、飛鳥時代の工房遺跡から出土した考古資料を通して、いにしえの技術者—匠たちの技術体系に迫りたいと思います。飛鳥時代の「ものづくり」の技や知恵をご覧いただくとともに、復元製作実験の成果等、「古代と現代の匠の対話」もお楽しみください。 (飛鳥資料館 丹羽 崇史)

会 期：2014年4月25日(金)～6月15日(日)期間中無休

開館時間：9:00～16:30(入館は16:00まで)

記念座談会：5月11日(日)13:30～

ギャラリートーク：4月26日(土)13:30～ 5月11日(日)10:30～ 5月24日(土)13:30～

ホームページ：<http://www.nabunken.jp/asuka> お問合せ：[0744-54-3561](tel:0744-54-3561)(飛鳥資料館)

※2014年4月1日より観覧料が一般 270円になります。



飛鳥池工房遺跡の金・銀坩堝と金片・銀片

平城宮跡資料館「木簡(もっかん)の展示」

平城宮は、木簡の一大消費地です。平城宮跡資料館にも木簡の展示コーナーがあります。そこで、今回は「木簡の展示事情」について少し紹介しましょう。現在、資料館の常設展で展示されている木簡は、ほぼすべてレプリカ(複製)です。木簡は、光や温湿度の変化に弱く、実物を公開するのは毎年秋に開催する「地下の正倉院展」で、1点の木簡につき展示期間を2週間に限っています。平城宮・京出土の木簡は、他の博物館の企画展に出品依頼を受けることもあります。適切な温湿度管理のもと展示していただくことを条件にお貸ししていますが、実物木簡の展示期間は2週間なので、企画展の開催期間を考えてレプリカも一緒に貸し出すことが多いです。近年、古代の文字に関する企画展が各地で開催され、資料館の木簡たちはひっぱりだこです。 (企画調整部 渡邊 淳子)



資料館 遺物展示コーナーの木簡たち

開館時間：9:00～16:30(入館は16:00まで)

休館日：月曜(5/5は開館、5/7休館)

ホームページ：<http://www.nabunken.jp/heijo/museum> お問合せ：[0742-30-6753](tel:0742-30-6753)(連携推進課)

■ お知らせ

平城宮跡資料館 ロビー展示

2014年3月12日(水)～

「震災復興調査とその支援」

藤原宮跡資料室 ロビー パネル展示

2014年1月23日(木)～5月頃予定

「震災復興調査とその支援」

飛鳥資料館 春期特別展

2014年4月25日(金)～6月15日(日)

「いにしえの匠たち—ものづくりからみた飛鳥時代—」

■ 記録

現地説明会

○飛鳥藤原第179次発掘調査(藤原宮朝堂院朝庭)

2014年12月21日

337名

○平城第519次発掘調査(薬師寺十字廊跡)

2014年2月15日

350名

○平城第520次発掘調査

(平城宮跡第一次大極殿院地区)

2014年3月8日

715名

飛鳥資料館 特別公開

2014年1月17日～26日

「発見30周年記念 キトラ古墳壁画特別公開」

4,008名

飛鳥資料館 冬期企画展

2014年2月14日～3月16日

「飛鳥の考古学2013」

1,851名

編集 「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 <http://www.nabunken.go.jp/>

Eメール jimu@nabunken.go.jp

発行年月 2014年3月